

福祉サービス第三者評価結

評価結果報告書

令和 1（2019）年度

株式会社M I R A T Z

★MIRATZ田端新町★

一般社団法人地域ケア総合評価機構

TEL03-3879-7823 FAX03-3879-2393

〔事業者の理念・方針、期待する職員像：小規模保育事業〕

1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）
	事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）
	1）未来の希望に向かって発展・向上する元気な子どもを育む 2）心豊かなエコ環境と優しい地域社会に生き生きと共生する子どもを育む 3）みんなを親しみ愛し、太陽のように暖かい心を持った子どもを育む
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）
	（1）職員に求めている人材像や役割
	・子ども一人一人に平等で、深い愛情を持ち日々接することのできる人材 ・子どもの発達段階を理解し、状況に応じた適切な援助や保育が出来る人材 ・危機管理能力を持ち、常に安全への配慮を欠かせない人材 ・保護者との信頼関係を大切にし、子どもにとって最善の保育を追求できる人材
	（2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感）
	・向上心を持ち、研修等への意欲的な参加で、保育力向上への努力を惜しまない姿勢 ・乳幼児期の人格形成に重要な時期に携わっている自覚と責任感 ・子ども主体の保育の実現

〔利用者調査：小規模保育事業〕

調査対象	保育所を利用している全保護者を対象に調査を行った。子どもの総数は18人、世帯数は18世帯である。		
調査方法	アンケート方式で実施した。保育所より調査票を全世帯に配布し、回収は返信用封筒で直接評価機関に郵送してもらう方法をとった。		
	利用者総数	18	
	利用者家族総数（世帯）	18	
	共通評価項目による調査対象者数	18	
	共通評価項目による調査の有効回答者数	18	
	利用者総数に対する回答者割合（％）	72.2	

利用者調査全体のコメント

MIRATZ田端新町保育園は株式会社MIRATZの経営で、平成29年4月に、0～2歳児までの定員19名の小規模保育園として開園した。今回の利用者調査では「問1.保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか」「問9.施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか」「問10.職員の接遇・態度は適切か」「問13.子どもの気持ちを尊重した対応がされているか」「問14.子どもと保護者のプライバシーは守られているか」に100％が「はい」と答えている。「問4.保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか」他、「問8」「問11」「問15」「問16」にも92％が「はい」と答えており、評価が高い。総合評価では、「大変満足」「満足」が合わせて100％である。自由記載欄に「とてもきめ細かく子供に対応してくれている」「園児それぞれに向き合ってくれている」「子供が毎日楽しそうに通っている」「保育者も楽しんで仕事ができているようだ」とあった。「聞けば教えてくれるが、一日の様子をもっと詳しく教えてほしいと思うことがある」「デジタル化を進めてほしい」「行事は土曜日開催が助かる」という少数意見もあった。

利用者調査結果

コメント欄を必ず入力してください

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	13	0	0	0
100％の保護者が「はい」と回答している				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	11	2	0	0
「はい」が85％であった。「どちらともいえない」が15％で「いいえ」はなかった。				

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	11	2	0	0
「はい」が85%であった。「どちらともいえない」が15%で「いいえ」はなかった。「まだ食べたことのない食品が提供される日に、食べさせてほしいとお願いしたら快く了承してもらえた」「食事の内容はとても良いが、量が少ないように感じる」という意見があった。				
4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	12	1	0	0
「はい」が92%であった。「どちらともいえない」が8%で「いいえ」はなかった。「老人ホームの訪問や英語の講師を招くイベントなどが行われ、とても良い」という意見があった。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	8	3	0	2
「はい」が62%であった。「どちらともいえない」が23%で「いいえ」はなかった。「非該当」と回答した保護者が15%あった。「まだこのような状況になったことはないが、おそらく対応してくれると思う」という意見があった。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	11	2	0	0
「はい」が85%であった。「どちらともいえない」が15%で「いいえ」はなかった。「うつぶせ寝をさせないなど、配慮されているのが良い」「安全対策が十分に取られているかどうかの評価は、どのように評価したらよいか分からない」という意見があった。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	8	5	0	0
「はい」が62%であった。「どちらともいえない」が38%で「いいえ」はなかった。「土曜日開催のほうが助かる」「平日の夕方開催が多く、参加できない人もいるかと思うが、土日に行事を入れていないことはありがたい」「まだ参加する機会がない」という意見があった。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	12	0	1	0
「はい」が62%であった。「いいえ」が38%であった。「子どもの状況をいつも細かく話してくれ、ノートにも記入してくれるので信頼している」という意見があった。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	13	0	0	0
「はい」が100%であった。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	13	0	0	0
「はい」が100%であった。				

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	12	1	0	0
「はい」が92%であった。「どちらともいえない」が8%で「いいえ」はなかった。「子供の発熱の際、もっと職場に電話してくれてもかまわない」という意見があった。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	9	1	0	3
「はい」が69%であった。「いいえ」が8%、「非該当」が23%であった。「まだ起きたことはないが、おそらく信頼できると思う」という意見があった。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	13	0	0	0
「はい」が100%であった。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	13	0	0	0
「はい」が100%であった。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	12	1	0	0
「はい」が92%であった。「どちらともいえない」が8%で「いいえ」はなかった。「お迎え時に、一日の様子をもっと詳しく教えてほしいと思う時がある。こちらから聞けば教えてくれるのでそれはありがたい」という意見があった。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	12	0	0	1
「はい」が92%であった。「非該当」が8%で「いいえ」はなかった。				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	8	2	0	3
「はい」が62%であった。「どちらともいえない」が15%、「非該当」が23%で「いいえ」はなかった。				

〔組織マネジメント：小規模保育事業〕

Ⅰ 組織マネジメント項目（カテゴリー 1～5、7）

No	共通評価項目		
1	カテゴリー 1		
	リーダーシップと意思決定		
	サブカテゴリー 1（1－1）		
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	7/7
	評価項目 1		
	事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）を周知している		評点（〇〇）
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	○非該当
	評価項目 2		
	経営層（運営管理者含む）は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事務所をリードしている		評点（〇〇）
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	○非該当
	評価項目 3		
	重要な案件について、経営層（運営管理者含む）は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している		評点（〇〇〇）
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○非該当
	カテゴリー 1 の講評		
	① 職員や利用者家族に事業所の理念を示し伝えている 事業所は理念として 1. 未来の希望に向かって発展・向上する明るい元気な子どもを育む。 2. 心豊かなエコ環境と優しい地域社会に生き生きと共生する子どもを育む。 3. みんなを親しみ愛し、太陽のように暖かい心を持った子どもを育む。との理念を掲げ、職員に対しては研修や会議での議論を通じ、利用者家族へは、入園ガイドや入園のしおりを通じて理解が深まるように取り組んでいる。ただ、理念2. の実現のための具体案は示されていない。 ② 園長などの職責、役割について運営規定等で明確にし、リーダーシップを発揮している 園長の職責や役割については運営規定に規定している。その上で、具体的にその職責が果たせるように、年間の研修計画の中に園長の研修も計画し実践している。日常業務を進める上では保育力向上や地域貢献活動など各分野のリーダーを決め、職員の力を結集した事業所の運営となるようリーダーシップを発揮している。		

	③ 重要な案件の検討や手順を決め、職員や利用者家族に周知する努力をしている 事業所の決裁権限が明確にされ、それに基づいて重要事項の決定がなされ、職員に対しては、常勤職員が参加する毎月の全体会議や給食会議で周知されている。利用者に対しても手紙や書面にて伝えている。ただ、管理者は、職員アンケートでも、44%の職員が「そう思わない」「わからない」と回答しているように、非常勤職員に対しての伝達・周知が不十分と感じており、改善を図りたいとのことである。		
2	カテゴリー 2		
	事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
	サブカテゴリー 1 (2-1)		
	事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 6/6
	評価項目 1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している 評点 (○○○○○○)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
	●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
	●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向（行政や業界などの動き）について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
	●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
	●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
	サブカテゴリー 2 (2-2)		
	実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 3/5
	評価項目 1 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している 評点 (○●●)		
	評価	標準項目	
	○あり ●なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
	○あり ●なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
	●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
	評価項目 2 着実な計画の実行に取り組んでいる 評点 (○○)		
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けた、計画の推進方法（体制、職員の役割や活動内容など）、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当	
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し（半期・月単位など）、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当	

	カテゴリー 2 の講評		
	① 利用者家族や職員の意向、地域福祉の情報の把握に努めている 利用者家族に対しては手紙にアンケートをつけたり、意見箱を設置するなどして意向やニーズをつかむ努力をしている。職員からは定期的な個人面談などを通じて事業所運営などについて意向を把握している。地域福祉の状況については北区の地域型保育事業連絡会への参加や研修などを通じてニーズや課題の把握に努めている。それらの情報は法人にも連絡し共有している。地域のニーズに対し、事業所としてどのような形で地域貢献できるか話し合っている。 ② 中・長期計画の策定はこれからである 中長期計画は未策定の状況である。開設3年目となり、0歳～2歳児の保育所としての立ち上げの到達点や課題なども明確になってきていると思われるので、それらを踏まえ、理念の実現に向けて何をいつ行うのかの中・長期計画の策定に向けた議論が開始されることを期待したい。その際、0歳～3歳未満児の発達をふまえて保育園での生活の在り方に関する記載を充実させた、昨年改定の保育指針を拠り所とすることが重要と思われる。 ③ 着実な計画の実行に向け全職員の力の結集と丁寧な振り返りに一層の努力を 保育内容、職員研修などが記載された「全体的な計画」が作成され、それに基づいて職員の体制、役割分担などを明確にして取り組んでいる。また、運営規定には「保育所の自己評価を年1回行う」としている。しかし、年間事業報告には保育課程で計画された取り組みがどうだったのかは記載されていない。保育指針でも、計画作りへの全職員の参画と計画や目標とその達成状況、それを踏まえた課題の明確化、課題解決に向けた改善方策の設定など保育所としての振り返り、自己評価の重要性を強調している。充実・改善を期待したい。		
	3		
	カテゴリー 3		
	経営における社会的責任		
	サブカテゴリー 1 (3-1)		
	社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 1/2
	評価項目 1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点 (○●)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳を含む）などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	○非該当
	○あり ●なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳を含む）などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	○非該当
	サブカテゴリー 2 (3-2)		
	利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 4/4
	評価項目 1 利用者の意向（意見・要望・苦情）を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点 (○○)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
	●あり ○なし	2. 利用者の意向（意見・要望・苦情）に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当

評価項目 2 虐待に対し組織的な防振対策と対応している 評点 (〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当
サブカテゴリー 3 (3 - 3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目 1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点 (〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当
評価項目 2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点 (〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク（事業者連絡会、施設長会など）に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当
カテゴリー 3 の講評		
① 福祉サービスに従事する者が守るべき法・規範の職員への周知・理解に一層の努力を 運営規定には事業所が提供する保育・教育の内容として、「児童福祉法、子ども子育て支援法、その他関係法令等を遵守し保育所保育指針及び保育課程に沿って・・・提供する」と記載されている。しかし、職員に対しては、個人情報保護について就業規則に追加された点の報告を行ったこと以外に、理解を深める具体的な取り組みや定期的な確認はされていない。名実ともに運営規定に明記している事業所として前進するためにも研修等による職員への周知と理解を深める取り組みが求められる現状だと思われる。 ② 利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている 事業所として苦情対策要綱を作成し、苦情受付担当、解決責任者を決め速やかに対応する体制を整え対応している。第三者委員も配置し、連絡先も明示している。虐待についても運営規定に「防止のための措置」を明記している。職員へは、入職時に防止策について説明し、日常的には虐待に関するチェックシートによるチェックを行って予防につなげている。気になるケースが発生した場合はこども家庭支援センターと相談・連携するなど、組織的に取り組んでいる。 ③ 地域貢献の取り組みに力を入れている 子育て支援員を配置し、年間15件から20件の相談に乗っている。区に申し入れ、区のホームページにも子育て支援事業所として今秋以降、新たに紹介してもらえるようにした。また、「地域貢献活動リーダー」を中心に、理念実践に向けての取り組みを相談し、誕生会への地域の子育て家庭の招待、保育所体験、ボランティアの受け入れ、保育士・栄養士を目指す学生の体験受け入れ、老人ホーム訪問などに取り組んでいる。		

4	カテゴリー 4		
	リスクマネジメント		
	サブカテゴリー 1 (4 - 1)		
	リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 3/5
	評価項目 1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる 評点 (○○○●●)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク（事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など）を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
	●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
	○あり ●なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画（BCP）を策定している	○非該当
	○あり ●なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
	●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
	サブカテゴリー 2 (4 - 2)		
	事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 4/4
	評価項目 1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている 評点 (○○○○)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員（実習生やボランティアを含む）が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当	
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当	
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当	
カテゴリー4の講評			
① 年間防災計画を策定し、地震、火災を想定した避難訓練、不審者訓練を毎月実施している 年間防災計画を策定し、毎月、地震や火災を想定した避難訓練、不審者訓練を実施している。災害時の安全確保については、入園のしおりに対応方法や連絡方法などを明記するとともに、個別にも文書で知らせている。荒川の氾濫を想定した避難訓練を早めに実施する予定だが、避難場所については通常の避難場所とは別の高台に設定している。このようにリスクマネジメントには力を入れているが、事業継続計画の策定はこれからとなっている。災害の種類や程度に応じた継続計画の策定を期待したい。 ② 事業所の情報を組織的に管理・保護し、活用している 園児の情報を始め収集した情報は必要な人が必要な時に活用できるよう、書庫で管理している。機密性の高い情報を管理しているパソコンにはパスワードを設定し、権限のある職員だけがアクセスできるようにしている。 ③ 個人情報の取り扱いについて規程・体制を整備し必要な対策を講じている 個人情報の保護・管理については、利用目的の明示、開示請求への対応を含む「個人情報保護基本規程」を定め、体制を整備している。職員に対しては入職時の説明とともに就業規則への明記など周知徹底に努めている。子どもたちの園内の活動状況をFacebookにアップすることもあるが、その際利用者家族から承諾を得るようにしている。			

5	カテゴリー 5		
	職員と組織の能力向上		
	サブカテゴリー 1 (5 - 1)		
	事業所が目指している経営・サービスを実現する 人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 10/12
	評価項目 1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている 評点 (○○)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
	評価項目 2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している 評点 (●●)		
	評価	標準項目	
	○あり ●なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望（キャリアパス）が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
	○あり ●なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望（キャリアパス）と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
	評価項目 3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる 評点 (○○○○)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
	●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成（研修）計画を策定している	○非該当
	●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成（研修）計画へ反映している	○非該当
	●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
	評価項目 4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる 評点 (○○○○)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇（賃金・昇進・昇格等）・称賛などを連動させている	○非該当
	●あり ○なし	2. 就業状況（勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど）を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
	●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
	●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当
	サブカテゴリー 2 (5 - 2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 3/3	
評価項目 1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる 評点 (○○○)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当	
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当	
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当	

① 地域貢献活動や保育力向上のリーダーなどを決めそれぞれに対する研修を行っている

職員の発案により、園長、主任以外にも、地域貢献活動リーダー、遊びや行事を担当するクリエイター部、絵画制作と遊びを担当するクラフトデザイン部、運動遊びを担当するフィジカル部、音楽・リズム表現を担当するリズムパフォーマンス部の設定とそれをまとめる保育力向上リーダーを配置している。それに沿って、毎月の研修が計画され外部講師により、園長・主任・リーダー・各部の研修が取り組まれている。それに加えて、東京都のキャリアアップ研修制度を利用しての研修が個人別年間研修計画として設定され取り組まれている。

② キャリアパスの設定により、職員育成活動の一層の前進、飛躍を期待したい

職員は、事業所の全体的な計画の「保育の内容」に設定された項目を評価基準にした「保育士の自己点検・自己評価」チェックシートにより自己の取り組みがどこまで到達したかを評価した上で園長との面接に臨み、園長の評価査定を受け、それを踏まえて次年度の課題と目標を設定している。前項の取り組みも含め、事業所は職員の育成に力を入れている。しかし、その拠り所となるキャリアパスについてはまだ作成されていない。早期にキャリアパスが策定され、それに基づいた育成活動が進められることにより、育成活動が更に前進・飛躍することを期待したい。

③ 個人面接による職員の意向把握、親睦会開催など働きやすい職場づくりに努めている

職員は年に2回自己評価表を記入し、それをもとに園長と面接をしている。園長は職員の到達点と課題をつかみ、評価・査定している。同時に次年度のクラス担当については職員の希望も聞いてできるだけ希望に沿うようにしたり、毎月のシフト作成時には職員の希望を聞いたり、有給休暇についても取得できるようにして、職員の意識を把握し、働きやすい職場づくりに努めている。また、毎日一つのテーブルで食事をしたり、毎年親睦会を行うなど職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている。職員アンケートでも働きやすいとの声が出されている。

7	カテゴリー 7	
	事業所の重要課題に対する組織的な活動	
	サブカテゴリー 1 (7-1)	
	事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
	評価項目 1	
	事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている（その1）	
	前年度の重要課題に対する組織的な活動（評価機関によるまとめ）	
	2017年度は開設の年であったが、年間活動をふりかえる中で、地域の方との交流が持てなかったことが反省点として出され、2018年度は、重点取り組み事項の一つとして取り組んだ。 その実践としては、毎月誕生会に0～2歳児の子どもと保護者に参加してもらい、ペープサートやパネルシアターなどを楽しんでもらったり、参加した子どもの年齢に応じたクラスに入ってもらい、一緒に室内遊びや製作を楽しめるようにした。 また、子育て支援員の認定を受けた職員が保護者の相談にも乗った。その結果、継続した相談、次年度の入園希望へとつなげることができた。 子育て相談を、事業所として力を入れて取り組んだ結果、2018年度は20件近くになった。 反省点としては、日程などが決まるのが遅くなり、地域へのお知らせが遅くなったことが挙げられた。	
	目標の設定と取り組み	☐ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☒ 具体的な目標が設定されていなかった
	取り組みの検証	☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった（目標設定を行っていなかった場合も含む） ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
	検証結果の反映	☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
	評価項目 1 で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評	
	事業所を運営する法人はそのミッションステートメントで「地域の子育て家庭をサポートするために、有益な情報の交流や発信の役割を担う」ことを掲げており、これを具体化するための方策や計画が年度重点課題として掲げられる必要がある。しかし、年度の重点取り組み事項としては2017年度、2018年度とも挙げられておらず、重点取り組み事項を年間事業計画に挙げ、それを全職員で取り組み、結果を検証して次年度に生かしていくというきれいな形での取り組みの循環には至らなかった。しかし、実際には、子育て支援の活動に力を入れ、大きな成果を上げている。また、2019年度には、その活動をさらに前進させるべく年間事業計画の重点取り組み事項として掲げられるところまですすんでいる点は評価したい。	

評価項目 2 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている（その2）	
前年度の重要課題に対する組織的な活動（評価機関によるまとめ）	
2017 年度は開園したばかりということもあり、入園式は行わず、保護者同士の顔合わせが遅くなってしまい、保護者からも意見が出ていた。2017 年度の振り返りでは、その点を踏まえ、2018 年度には入園式を実施することにした。 まず、2018 年度入園事前説明会の際に入園式を初登園日に行うことを伝え、子ども、保護者の参加が得られるようにした。入園式では1年間の行事説明、職員紹介、保護者の紹介を行い交流の場も設けた。 取り組みの振り返りでは、良かった点として、保護者から、早めに顔合わせが出来たことで、園内外でのコミュニケーションがとりやすくなったことを喜ぶ声があった事、反省点としては司会進行と行事の説明を園長が一人で行ったので、次回からは司会を園長以外が担当することなどが出された。 2019 年度は、司会を主任が行い、保護者の座る位置に誘導するなどスムーズに行うことが出来た。また、当日の流れも知らせたので保護者としても、次はだれが何を話すのかが明確になって分かりやすい会となったと事業所は評価している。	
目標の設定と 取り組み	○具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ○具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ●具体的な目標が設定されていない
取り組みの検証	○目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ●目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていない（目標設定を行っていない場合も含む） ○設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	○次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ●次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ○設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
評価項目 2 で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評	
評価項目 1 と同様に、この取り組みについては2017年度の計画にも2018年度の計画にも重点取り組み事項としては挙げられていない。しかし、上記のように事業所としての振り返りが重ねられて年々改善され、園と保護者、保護者同士の関係作りの点でも良い取り組みとなっていると思われる。その点は評価したい。	

〔サービス分析：小規模保育事業〕

Ⅱ サービス提供のプロセス項目（カテゴリー－6-1～3、6-5～6）

No	共通評価項目		
1	サブカテゴリー 1		
	サービス情報の提供		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 4/4
	評価項目 1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点（〇〇〇〇）
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○非該当
	●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている	○非該当
	●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○非該当
	●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○非該当
	サブカテゴリー 1 の講評		
	① 入園ガイドやホームページで利用希望者に事業所の情報をわかりやすく提供している 入園ガイド（保育園の案内チラシ）は MIRATZ 保育園の保育理念、当保育園の年間行事予定、一日の生活の流れ、保育時間、入園後の持ち物、保育園利用規約などの情報がわかりやすく明記されており、利用希望者に渡されている、法人のホームページには共通理念やビジョンの説明、先生インタビューなどがあり、運営保育園一覧の中から、当保育園の詳細を見ることができる。また、日々の園生活の様子はフェイスブックで画像で見ることができる。また、ホームページにはお問合せフォームがあり、質問などを送信できるようになっている。 ② 利用希望者に向けて、玄関などにさまざまなポスターを掲示している 「入園ガイド」、「あそびにきてね」（誕生会のお誘い）などのポスターを利用希望者に見えやすいよう、玄関や道路沿いのフェンスに掲示している。ポスターはカラー刷りにして、目を引くような工夫がされている。そのポスターを見て問い合わせがくることもある。 ③ 利用希望者の見学を個別の要望に応じて受け入れている 利用希望者から見学の問い合わせがあった際は見学日時を限定せず、利用希望者の要望に応じて実施している。見学者には園長が対応し、施設を案内し、子どもたちの様子を見てもらい、説明を詳しく行っている。昨年度は約 50 件の見学があり、今年度はこれまでに 9 件の見学があった。		
2	サブカテゴリー 2		
	サービスの開始・終了時の対応		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 6/6
	評価項目 1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点（〇〇〇）
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当
	●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
	●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
	評価項目 2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点（〇〇〇）
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
	●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当
	●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○非該当

	サブカテゴリー 2 の講評		
	① 入園前の保護者面談の中で、重要事項について説明をし同意を得ている 入園前の保護者面談を個別に行い、保育園のしおり、重要事項説明書に基づいて細かい説明を行っている。6 頁からなる保育園のしおりには、園の概要、保育理念、保育計画、一日の流れ、持ち物、健康管理、安全管理、保育料について、延長保育について、苦情申し出窓口について、年間行事予定などが記され、一つひとつ丁寧に説明を行い、同意を得ている。入園までの生活状況や健康記録、保護者の勤務状況、緊急連絡先などの必要な情報については、事前に記入を依頼しておき、面談の中で確認し、児童票に記録し、保育に生かしている。 ② 入園直後は子どもが無理なく保育園に慣れていけるように慣らし保育を行っている 入園直後の子どもの不安やストレスを軽減するために、2 週間程度をめやすに慣らし保育を行っている。保護者の勤務状況の理由から予定が合わない場合は保護者の要望に応じて、慣らし期間を短くして対応している。その際は子どもの気持ちをくみながら、なるべく決まった保育士がそばに付いて 1 対 1 での保育を行い、降園時には保護者に細かく様子を伝えている。 ③ サービス終了時、子どもや保護者への支援を継続していく為に検討が望まれる 0.1.2 歳児のみの保育園であるため、2 歳児クラスを終了すると保育園や幼稚園に転園していくことになる。その際、保護者から不安な声や質問があれば、個別に丁寧に相談に応じている。しかし、子どもたちへの支援はまだできていないので子どもたちに大きくなったらという将来像を見せ、転園への期待感を持たせるために、幼児のいる保育園との交流などを実現させたいということであり、期待したい。		
3	サブカテゴリー 3		
	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 12/12	
	評価項目 1		
	定められた手順に従ってアセスメント（情報収集、分析および課題設定）を行い、 子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点（〇〇〇）
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
	●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
	●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当
	評価項目 2		
	全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		評点（〇〇〇〇〇）
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護（生命の保持・情緒の安定）と教育（健康・人間関係・環境・言葉・表現）の各領域を考慮して作成している	○非該当
	●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、作成、見直しをしている	○非該当
	●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況（年齢・発達の状況など）に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
	●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
	●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直ししている	○非該当
	評価項目 3		
	子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している		評点（〇〇）
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
	●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当

	評価項目 4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有している			評点 (〇〇)		
	評価	標準項目				
	●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している		○非該当		
	●あり ○なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している		○非該当		
	サブカテゴリー 3 の講評					
	① 全体的な計画のもと、指導計画を作成している 「全体的な計画」に基づいて、年間指導計画、月間指導計画、月の個別指導計画、週案を作成し、日々の保育に生かしている。月間指導計画には子どもの評価、保育士の自己評価の欄があり、次月に生かしている。週案は一日ごとに活動内容を入れているが、天候や子どもの状況で変更した場合は赤字で追記し、変更がわかるようにしている。年間保育計画は子どもの入園前の3月に作成するため、保育が始まってみると実際とずれる場合もあるという。今後、年間保育計画の作成時期の検討が望まれる。					
	② 保育日誌や児童票などで子ども一人ひとりの発達の様子を記録している 日々の保育内容や子どもの変化は、毎日保育日誌に記録している。開園初年度に園長の提案により、様式の見直しがされている。日々の保育のねらいを明記する、特記事項にはその日のヒヤリハットを記入する、保育の評価と反省の欄を多くするなど、記入しやすく、次の計画に生かせるように改善されている。子どもの発達経過や健康状況は児童票に記録している。児童票の記入は担任が交代で記入し、発達の様子を共有できるようにしている。					
	③ 保育計画を保護者に伝える方法の工夫や充実が望まれる 月の保育計画を、園だよりを使って保護者に伝えている。毎月必ず3クラスそれぞれに、子どもたちの姿や成長の様子、今月の保育内容について伝えている。園だよりはイラストも入り、カラー刷りで親しみやすいように工夫されている。しかし、月に1回の限られた紙面では伝えきれない内容もあると思われるので、さらに詳しい内容が伝えられるような工夫が望まれる。					
	サブカテゴリー 5					
	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5			
5	評価項目 1 子どものプライバシー保護を徹底している			評点 (〇〇)		
	評価	標準項目				
	●あり ○なし	1. 子どもに関する情報（事項）を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている		○非該当		
	●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている		○非該当		
	評価項目 2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している					
	評価	標準項目				
	●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している		○非該当		
	●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている		○非該当		
	●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている		○非該当		
	サブカテゴリー 5 の講評					
	① 子どものプライバシー保護や羞恥心に配慮した保育をしている テラスでの水あそびの際に外の通りから見えてしまうので、洋服のまま遊ぶ、シャワーや食事の後の着替えはトイレの中にスペースを作って行う、など子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている。また、子どものプライバシー保護のために保育室の子どもの個人ロッカーや制作の展示物には個人名を出さず、マーク添付で対応している。					

	② 子ども一人ひとりの気持ちを尊重した保育に努めている 「全体的な計画」の中に人権尊重についての明記があり、職員は意識を持って保育にあたっている。利用者アンケートでも「とてもきめ細かく子どもに対応してくれている」「子どもに対する先生の言葉づかいがとてもやわらかくて優しいなと思う」とあった。子ども同士のトラブルの際には、他の子どもたちから離れたところで、1対1でじっくりと子どもの気持ちを聴きとり、子どもが納得いくまで話をするなどの対応をしている。														
	② 写真などの情報管理について、保護者の承諾を得ている 入園説明で個人情報保護の方針を伝え、保育園での生活の様子を写真に撮りフェイスブックに掲載することを説明し、承諾書をもっている。USBメモリに日頃の子どもの様子の写真を記録し、月に一回貸し出しを行っている。その際は貸し出し表を使い、管理の仕方についてはルールを決め、保護者に厳守してもらっている。また、外部からの訪問者には、子どもたちの写真を撮ることは避けてもらうように伝えている。														
6	サブカテゴリー 6														
	事業所業務の標準化	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/5													
	評価項目 1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点 (〇〇〇) <table><tr><td>評価</td><td colspan="2">標準項目</td></tr><tr><td>●あり ○なし</td><td>1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている</td><td>○非該当</td></tr><tr><td>●あり ○なし</td><td>2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている</td><td>○非該当</td></tr><tr><td>●あり ○なし</td><td>3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している</td><td>○非該当</td></tr></table>			評価	標準項目		●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当	●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当	●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当
評価	標準項目														
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当													
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当													
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当													
	評価項目 2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点 (〇●) <table><tr><td>評価</td><td colspan="2">標準項目</td></tr><tr><td>○あり ●なし</td><td>1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている</td><td>○非該当</td></tr><tr><td>●あり ○なし</td><td>2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている</td><td>○非該当</td></tr></table>			評価	標準項目		○あり ●なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	○非該当	●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当			
評価	標準項目														
○あり ●なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	○非該当													
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当													
	サブカテゴリー 6 の講評														
	① 今年度、散歩マップの見直しを行い、手引書として活用している 散歩中の交通事故防止対策をきっかけにして、今年度、散歩マップの見直しを行った。マップには地域の公園や施設の場所を示し、それぞれに安全な経路を決めて線で示してある。保護者にも対策を強化したことをお手紙で知らせている。マップは事務室に掲示し、いつでも見られるようになっている。今後は散歩の際の持ち物などの明記も検討している。														
	② さらに保育の標準化のための手引書やマニュアルの整備が望まれる トイレには、「嘔吐の際の衛生的な処理の手順」が掲示されており、誰でもがすぐに見て適切に処理ができるように工夫してある。今後、さらに様々な保育場面での基本事項や手順について書面にまとめ、掲示したり、マニュアル集としていつでも見られる場所に保管しておくなどの整備が望まれる。														
	③ 手引書の改変の時期や見直しの基準を定めることが望まれる 全体職員会議や給食会議、クラス打合せなどで保育反省を行い、その中で必要に応じて手順の見直しを行っている。職員同士、気軽に意見交換や提案ができるような雰囲気づくりをこころがけ、また保護者の意向や運営委員会の意向なども考慮したうえで検討されている。しかし、今後はさらに、定期的な見直しの時期や基準を定めて、サービスの基本事項や手順が職員に徹底するよう取り組んでいくことが望まれる。														

III サービスの実施項目（カテゴリー 6-4）

サブカテゴリー 4			
サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 34/34	
1	評価項目 1 子ども一人ひとりの発達状態に応じた保育を行っている		評点 (〇〇〇〇〇)
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○非該当
	●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけができるよう、環境を工夫している	○非該当
	●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○非該当
	●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども（障害のある子どもを含む）の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当
	●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル（けんか・かみつきの等）に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○非該当
	評価項目 1 の講評		
	① 子ども一人ひとりの発達に応じた対応や援助に努めている 0 歳児 6 名、1 歳児 7 名、2 歳児 6 名と少人数クラスであり、さらに職員配置も 0 歳児 4 名、1 歳児 3 名、2 歳児 2 名と手厚く、保育士の目が行き届きやすい人的環境である。クラス担任の役割分担もできており、子どもの状況に応じて個別対応ができています。0 歳児の 4 月の月間指導計画の自己評価の欄に「子ども一人ひとりと密に関わり、安心できる環境作りを行っていった。一人ひとりのくせなどを共有するようにしていった」という記録があった。		
	② 子どもの発達段階に応じた手づくり玩具が用意されている 0 歳児室には、子どもが手に取りたくなるような手づくり玩具が用意されている。型はめや絵あわせ、輪投げなど、布を使って手触り良くしたり、明るくはっきりとした色使いにしたりなどの工夫がしてあり、子どもが手に取りたくなるような玩具である。その玩具は子どもが自分で取り出せる高さの玩具棚に納められている。玩具棚は開園後に子どもが選べるようにという保育士の要望で設置されたものである。		
③ 子どもが興味や関心を持って主体的に遊べるような環境の工夫が求められる 保育室は 0 歳、1・2 歳に分かれているが、それぞれワンフロアで遊び・食事・昼寝、更には運動遊びに使用している。1・2 歳児もコーナーを作って、それぞれの遊びに打ち込めるように工夫したいと検討中である。子どもが自分から遊びを見つけるためには、手が届くところに遊具があることが大事であり、保育士が出してあげなければならない状況では、保育士が遊びを決めがちである。子どもの人数に対しての広さはあるので、遊具の配置、コーナー作りなど、これからの検討を期待する。			
2	評価項目 2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点 (〇〇〇〇)
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
	●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○非該当
	●あり ○なし	3. 休息（昼寝を含む）の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
	●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当

評価項目 2 の講評

① 登降園時に保護者と連絡を密に行い、生活リズムに配慮した保育を行っている

家庭との連絡は連絡帳や登降園時の直接の会話で行っている。連絡帳は家庭からは体温、睡眠時間、朝食、健康状態などの生活リズムに関する記述欄があり、日中の保育に生かされている。朝の早番保育でも必ず保護者から直接連絡を聞き、引継ぎノートに記入され、全職員に周知されている。保育園からも一日の様子を連絡帳に細かく記入し、口頭でも伝え、家庭でも生活リズムが継続されるようにしている。

② 降園時に、その日の子どもの様子を保護者一人ひとりに直接口頭で伝えている

18 時 15 分までは 3 クラスとも、極力担任が勤務する体制をとっており、保護者対応は担任が行っている。そのため、子どもの一日の様子を口頭で細かく伝えることができるとともに、保護者からの質問にも的確に応じることができている。毎日の申し送りノートは個人別一覧表になっており、0 歳児は体温、便、給食、おやつ、睡眠、伝達事項に分けて記入されている。降園時に保護者に伝えることは赤字表示と決めており、連絡忘れが生じないように工夫している。

③ 子どもの状況に応じて、休息や午睡の工夫をしている

0 歳児で登園の早い子どもは午前寝をしたり、お迎え時間が遅い子どもは夕寝をしたりなど、個々の睡眠のリズムやその日の体調に合わせて機嫌よく過ごせるように工夫している。

3

評価項目 3

日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している

評点 (〇〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉による伝え合いを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当

評価項目 3 の講評

① 子どもが言葉による伝えあいを楽しめるよう、会話重視の保育をしている

保育の中で、言葉かけを多くするようにしたり、ペープサートなどを使って言葉の掛け合いを楽しんだりしている。子どもの言葉にならない言葉に耳を傾けることを大切にし、保育者からの一方通行にならないよう、ゆったりと会話していくことを大切にしている。

② 散歩などの園外保育を多く取り入れ、季節感を味わえる保育を重視している

発達時期に合った全身運動を十分に行うことを目的にして、園外保育を多く取り入れている。近くに公園も多く、天気の良い日は散歩などの戸外活動の時間を多く持つように配慮している。商店街を散歩して、クリスマスや節分などの特別な飾りを探して季節を感じたり、公園でどんぐりや桜の花びらなどを拾い集めて楽しんだり、帰園後にその自然物を使って遊んだりなどの保育をしている。

③ 子どもの自主性を伸ばすため、遊びの時間の使い方の配慮が求められる

乳児期に子どもが周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、主体的にかかわっていくことは大切な内容であり、そのために環境を工夫していくことが求められる。子どもの主体的な探索やあそびはある程度の継続した時間が必要であるが、朝の会や一斉での水分補給や設定保育で切断されることもあるように見受けられた。年齢の特徴をふまえた活動のバランスや時間の使い方などについての検討が望まれる。

4

評価項目 4

日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している

評点 (〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当

評価項目 4 の講評

① 季節の行事に制作などを取り入れて楽しみ、子どもの興味や関心を深めている

季節の行事に興味や関心が深まるように七夕には短冊を作ったり、夏にはすいか割りを楽しんだりしている。また、節分には鬼のお面を作ったりして楽しんでいる。制作は子どもがやってみたくなるような働きかけを行い、子どもの興味に合わせて保育士がそばに付き、手助けなどしながら完成させ、できた喜びを共感している。

② 日常の遊びを行事に取り入れる工夫をし、無理のないように取り組んでいる

クリスマス会を子どもたちの発表会として保護者に見てもらっている。発表内容はうたやリズム、楽器あそびなど、子どもたちが普段から興味があり、楽しんでいるものを選び、子どもたちに無理のないように配慮している。

③ 保護者参加の行事の装飾を園児全員で作り上げる機会を増やすことを検討している

入園式や卒園式、クリスマス会など、保護者参加の行事の部屋飾りや壁面装飾を保育士が作ってしまうのではなく、園児全員で作り上げ、保護者にも見てもらえる機会を増やしていくことを検討している。

5

評価項目 5

保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている

評点 (〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当

評価項目 5 の講評

① 保育時間の長い子どもは、体調などを考慮しながら、安心して過ごせる配慮をしている

遅番保育担当者は、当日の子どもの状況を把握したうえで、子どもが安心してくつろげるような環境を設定して保育にあたっている。体調をみて夕寝が必要な子どもは、0歳児室に移って静かに夕寝ができるようにしている。1・2歳児が遅番保育の中で疲れをみせた時に、部屋の隅の落ち着ける所にマットを敷いてあげ、ゴロゴロと横になってくつろげるように配慮しているが、今後、体を休めることのできるスペースづくりを検討している。

② 子どもたちは早番や遅番の時間も担任と一緒に安心して過ごすことができている

早番保育には0歳児担当の保育士が入るよう工夫されるなど、子どもがほぼ一日を通して、担任と一緒に安心して過ごせるように配慮されている。担任は昼間の様子を細かく把握できているため、遅番保育でも継続した配慮ができている。

6

評価項目 6

子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している

評点 (〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調（食物アレルギーを含む）や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み（食材の栽培や子どもの調理活動等）を行っている	○非該当

評価項目 6 の講評

① 子どもが楽しく食事ができるよう、季節感のある献立の工夫がされている

食育年間計画を作成し、「食事のリズムをつかむ」「いろいろな食材に興味を持つ」「食事作りを体験する」「意欲的に自分で食べようとする」をねらいとして、保育士と2名の栄養士が連携して取り組んでいる。献立は旬の食材を取り入れる工夫がされ、毎月、行事に合わせて目にも楽しい行事関連献立が提供されている。誕生会の日には誕生児には特別の飾りつけがされ、子どもたちに喜ばれている。毎日、玄関に給食の展示を行い、保護者が家庭でも参考にできるようにしている。また、給食だよりを毎月発行して、旬の食材のレシピ紹介なども行っている。

② 調理活動を行い、楽しみながら食への関心を深めている

行事の日に合わせておやつ作りを行い、食への関心を深めている。七夕にゼリー、ハロウィンの日にかぼちゃメニュー、クリスマスにケーキ、節分の日に焼きそばパンを使った鬼の顔づくりなどを行っている。また、1・2歳児は食材に触れる活動としてそら豆むきなども体験している。その際、0歳児は誤飲防止のため、そら豆のさやを触って感触を楽しむなど年齢に応じた配慮をしながら行っている。今後もさらに子どもが食への関心を深められるように、食材に触れる機会を増やしていく予定である。

③ 食物アレルギーなど、体調に応じた食事を提供している

食物アレルギーの子どもへの除去食の提供は個別面接で細かく聞き取り、主治医による診断書と生活管理指導票を提出してもらい実施している。実施にあたっては毎月献立表を基にして保護者と献立チェックを細かく行っている。調理や配膳の際には個人別に定めた色のトレイや食器を使用するなど、提供ミスがないような工夫をしている。

7

評価項目 7

子どもが心身の健康を維持できるよう援助している

評点 (〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み（乳幼児突然死症候群の予防を含む）を行っている	○非該当

評価項目 7 の講評

① 散歩や戸外あそびの際には、安全確保やケガ防止に努めている

子どもの健康維持のために日頃より戸外遊び、体を動かす遊びを多く取り入れている。戸外あそびの前には体操をしたり、公園でも場面に応じて危険なことを知らせ、安全に遊べるように言葉をかけている。また、散歩経路では交通安全に十分注意を払い、子どもたちにも交通ルールを理解させるように働きかけている。また、ヒヤリハット記録簿、事故報告書の内容を職員で共有し、事故防止に努めている。

② 午睡時、仰向けで寝るよう姿勢を直し、保護者にも仰向け寝を呼び掛けている

乳幼児突然死症候群の予防のために、午睡チェック表を使い、十分に配慮している。午睡チェック表は0歳児は5分おきに、1、2歳児は10分おきに行うようになっている。早番や遅番保育での短時間の睡眠でも必ずチェックを行う体制を作っている。保護者にも家庭で、うつぶせ寝ではなく、仰向けに寝かせるように依頼して、事故防止につなげている。

③ 保護者に向けて「ほけんだより」を発行し、健康維持のための情報を発信している

保護者向けに「ほけんだより」を発行している。6月に発行されたほけんだよりには、プールあそびに向けて、この時期に流行する主な病気について特集している。プール熱、水いぼ、はやり目など、一つひとつについて、原因、症状、対応を知らせ保護者に役立つ内容になっている。「気になることや分からないことはいつでも園長または担任にお声掛けください」と書かれており、保護者が聞きやすいような雰囲気づくりがされていることがうかがえる。

8	評価項目 8		
	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行って		評点 (〇〇〇〇〇)
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
	●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
	●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
	●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
	●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当
	評価項目 8 の講評		
	① 保護者が子育てと仕事の両立ができるよう様々な支援を行っている なるべく保護者に負担をかけないように、保育園で使うエプロンなどは手づくりとせず、市販のもので良いとしている。また、午睡用のシーツは貸し出し、使用済みの紙おむつは保育園で処理している。また、保育園での発熱時は、37.5 度以上でメールで知らせ、38.0 度以上で電話連絡をしている。お迎え時間の変更は当日でも連絡帳に記入し、保育士にも伝えることで対応している。急な変更の場合は電話連絡で対応している。 ② 毎日、担任と保護者の会話を大切にし、信頼関係を深めている 保育園と保護者の信頼関係を深めるために、登降園時の保護者とのコミュニケーションを大切にしている。普通保育時間のみならず、早番や遅番保育でも個別対応できる体制を取り、子どもの一日の遊びの様子や健康状態について、細かく伝えている。特に「今日、初めて立った」「今日、〇〇ができるようになった」「今日、友達とトラブルがあってこういうふうに話をして解決した」など子どもの発達の節目になるようなことは必ず伝え、保護者と喜びを共感しあえるようにしている。 ③ 保護者同士が交流できる機会の充実が望まれる 保護者同士の交流の場として、6 月に保護者会、2 月に保育参加を行っている。保護者会前には、保護者会で話したい内容について、アンケートを取り、保護者の希望を重視した内容にして充実を図っている。保育参加は 1 週間の中で都合のつく日に参加できるように工夫し、給食の試食も行っている。保育参加以外の日でも希望があれば個別に保育見学も行っている。しかし、保護者会は年に 1 回の開催では、欠席した保護者は交流の機会を逃すことにもなるので、回数や開催時間などについての再検討が望まれる。		
9	評価項目 9		
	地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点 (〇〇)
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
	●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当
	評価項目 9 の講評		
	① 地域の図書館、老人ホームなどと交流し、子どもの生活の幅を広げている 子どもが多様な体験や交流ができるよう、地域とのふれあいを大切に考えている。地域の図書館でのお話会に行ったり、老人ホームを訪問したり、児童館に遊びに行ったり、消防署見学をしたりなどの交流を行っている。今後さらに地域へ出向いていく機会を増やすよう検討している。 ② 地域の親子に、保育園の毎月の誕生会への参加を呼びかけ、交流している 今年度は地域の親子を対象とした保育園体験や育児相談の実施を重点課題の一つとして取り組んだ。毎月 1 回、先着 5 組までの予約制で、誕生会を見学してもらい、園児と一緒に室内あそびを楽しむという内容である。園児は地域の子どもと一緒に遊ぶことを楽しむ様子が見られるようになり、その後の散歩の時に公園で出会い、「あっ、〇〇ちゃんだ」と笑顔でかかわって遊ぶ姿もみられるようになってきている。		

〔事業者が特に力を入れている取り組み：小規模保育事業〕

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	3-3-2	地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている
タイトル①	子育て相談、保育所体験、学生の体験受け入れなど地域貢献活動に力を入れている	
内容①	事業所を運営する法人は地域貢献活動を使命の一つにうたっている。事業所は、それを具体化して、地域の子育て家庭への育児相談、保育所体験受け入れ、保育士・栄養士を目指す学生のボランティア、保育所体験の受け入れ、地域の老人ホーム訪問などに取り組んでいる。 地域の子育て家庭の育児相談はこの2年半で既に数十件になっている。 区に申し入れ、2019年秋からは区のホームページの中で地域の子育て支援に取り組む事業所として紹介してもらえることになったとのことなので一層の活躍が期待される。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	5-1-1	事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている
タイトル②	手厚い人員配置で、一人ひとりの子どもに目が行き届く保育を実施している	
内容②	当園では、パートも含めると0歳児子ども6人に職員4人、1歳児は7人に3人、2歳児は6人に2人と国の基準に比べると手厚い配置をしている。全員有資格者であり、ほとんどが正規職員である。保育中目が行き届くようにするのはもちろんだが、登降園時には子どもを見る職員と保護者対応する職員とで分担して、保護者ともゆっくり話せるようにしている。保育士不足が問題になっているが、開園して3年目、辞める職員が少ないことも人材確保には大きい。職員間のチームワークの良さを大いに発揮して保育の充実を図ることを期待する。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	5-1-3	事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる
タイトル③	事業所内外の研修に旺盛に取り組んでいる	
内容③	職員育成の基礎となるキャリアパスが未作成ではあるが、子どもの養護・教育に関わる項目を評価項目にした職員の保育力向上の到達度を評価するチェックシートで職員は年2回自己点検・評価を行い、それをもとに園長の評価・査定を受け、その結果を踏まえて次年度の個人別の課題と目標、研修計画を作成する制度を作っている点や、東京都のキャリアアップ研修、法人主催の外部講師に依頼しての、園長以下全職員を対象にした研修など職員育成に力を入れている点は評価したい。	

〔全体の評価講評：小規模保育事業〕

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	子どもたちが快適に生活できるように、施設・設備を整えている
	内容	園内は明るく清潔で、利用者アンケートでも施設内の清掃・整理整頓は「はい」が100%だった。天井のエアコン、床暖房で温度調整をおこない、空気清浄器も備え付けてある。テラスでは夏場は日よけをつけて水遊びをできるようにしてある。また子どもの高さに合わせた手洗い場、コーナーに丸みがあるテーブル、子どもの身長に合わせた椅子の背あてなど、細かいことだが使う子どもに合わせ選ばれている。法人として保育園運営10年の積み重ねが生かされていると思われる。職員も床のよごれは直ぐにふき取るなど、清潔を保つよう行動している。
2	タイトル	給食は季節感を取り入れ、楽しく食べられるよう工夫している
	内容	季節の行事に合わせ、七夕ゼリー、ハロウィンのカボチャ料理、節分の鬼の顔に見立てた焼きそばパンなど、子どもが目で見ても楽しめる食事・おやつを提供している。誕生会の日には誕生児にはかわいいピックを使うなど、特別な印象を持たせるようにしている。また、季節の野菜を調理する前に0歳児には手で触れさせたり、1・2歳児はカボチャのマッシュやそら豆の皮むきなど食材に触れる活動を取り入れて、興味を育てている。今後食育活動を増やしていきたいとのことで、期待される。
3	タイトル	職員の意識を把握し働きやすい職場づくりをすすめている
	内容	職員は年に2回チェックシートに基づいて自己評価を行い、それを基に園長との個人面接に臨み、評価・査定を受けている。園長は、その際、次年度のクラス担当についての希望を聞くなど職員の意向や希望を把握し丁寧に対応するようにしている。毎月のシフト作成時にも職員の希望を聞いたり、有給休暇についても取得できるようにしている。また、毎年、親睦会を開催したり、毎日の食事は一つのテーブルでとるようにするなど、職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている。職員アンケートでも「働きやすい職場」との回答が寄せられている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	子どもの自主性・主体性を育て遊びこめる環境と時間の工夫が求められる
	内容	発達に合った手作りおもちゃも用意され、きれいに整頓されてはいるが、子どもが主体的に選べるように配置されているかと言えば十分でない。自発的にやりたいことを選び、それを保障する空間の使い方を検討中とのことだが、一斉に何かをする時の条件を優先することなく、子どもが遊びこめるように改善されることを期待する。また、朝の会などの生活の区切りで遊びを中断させていないか時間の使い方も検討が求められる。保育指針に立ち返り乳児にとっての環境・生活の在り方をとらえたうえで検討する事を期待する。
2	タイトル	保護者の養育力向上のための取り組みを充実させることが求められる
	内容	年に1回の保護者会、保育参加、個人面談をおこなっている。送り迎えの時には保護者と1対1で話せるので、子ども一人ひとりについては十分保護者と共有できている。しかし、保護者の養育力向上という点では、保護者会など集団での話し合い・学習をさらに充実させることが必要と思われる。送り迎えがばらばらな中で、保育経験が少ない保護者が多い乳児園だからこそ、保護者同士の育ち合いも園がリードをしてあげる必要がある。保護者の就労条件に配慮しつつ、保護者と保育園で一緒に子育てをする視点を持つことが求められる。
3	タイトル	中長期計画とキャリアパスの策定が望まれる
	内容	事業所は中長期計画の策定には至っていない。開設後2年半と短期間であるが、様々な経験を経て、当初の構想に照らして前進している点や課題、見直すべき点なども鮮明になってきていると思われるので、それらを踏まえ、中長期計画の策定に向けた議論が開始されることを期待したい。この間、職員育成活動に力を入れて取り組み、別項に記したように前進している。今後キャリアパスが策定できれば職員育成システムとしては一定の水準に到達すると思われるので、この点も早期の策定を期待したい。